

新除草・調節剤

SW-6701水和剤

(取扱メーカー) 三 共 株 式 会 社
 北 海 三 共 株 式 会 社
 九 州 三 共 株 式 会 社

対象作物：トマト

性状、作用特性：三共で研究開発されたピリダジン系の新除草剤で、有効成分の3-(2-メチルフェノキシ)ピリダジンを50%含む水和剤である。この除草剤は非ホルモン型の土壤処理剤で、接触作用は極めて少なく、雑草の発芽前から発芽後生育の初期までの処理で除草効果が高い。生育の進んだ植物に対しては効力は劣る。メヒシバ、ノビエ、エノコログサ、スズメノテッポウなどのイネ科雑草やハコベ、ノミノ

フスマなどのナデシコ科雑草には高い除草効果があるが、アカザ、スベリヒユ、タデなどには効果が劣る。トマトは抵抗性が強く、トマト畑の除草に実用性が高い。

毒性や魚毒性は低く、安心して使用出来る。

マウス急性経口毒性

LD₅₀ ; 568.9 mg/Kg

稚ゴイ 48時間

TL_m ; 62.0 ppm

また皮膚や粘膜を刺激したり、衣服を汚染したり、容器を腐蝕させたりする心配は全くない。

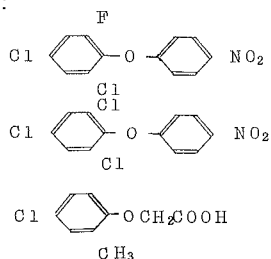
使用方法：トマトを本田に移植し、活着後、10アール当り製品量で500～600gを100ℓの水でうすめて散布する。トマトの莖葉にはなるべくかゝらないように株間土壌表面に均一に散布する。

後作の影響の有無については検討中である。

うためにMCPを配合した混合剤で、広葉雑草、マツバイ等にも効果が高い。

MO-501粒剤の短所
 エムオン-6粒剤と同じ。

構造式：



MO-502粒剤

化学組成：MO-500 1%
 2,4,6-トリクロルフェニル-4'-ニト
 ロフェニルエーテル 6%
 2-メチル-4-クロルフェノキシ酢酸
 0.8%

魚毒性：前掲の通り。

MO-502粒剤は昭和41年度から、移植
 水稻用除草剤として試験を実施し、実用化可能

と判定されているが、昭和43年度は未だ市販
 されていない。

MO-502粒剤の特長

MO-500粒剤の草種間の選択殺草性、又
 雑草抑制期間の短い点を補うために、MO、
 MCPを配合した3種混合剤である。

MO-502粒剤の短所

MO-501粒剤と同じ。